

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 8日

事業所名 みらいスイッチ神埼第二

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		活動内容や利用者の年齢に合わせてグループに分け、少人数でおこなうことでより広いスペースが確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	7		安全に子どもを見守ることができる人員配置。	来年度は更に余裕を持った配置予定
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2	構造化はTEACCHを参考におこなっており、何をやる部屋なのかも分かりやすい。視覚的手段、支援をおこなっている。	階段、玄関はスロープなど配慮が必要
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		毎日の掃除、換気は丹念におこなっており、用途に合わせた構造や配置になっている。	椅子やテーブルを使用する際、足がしっかり着くものを準備する。
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1	個々の経験やスキルを活かし話し合いをおこなっている。	PDCAサイクルを周知していく。目標設定への参画を更に意識していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	3		今回が初回のアンケートとなるため、保護者の意向を把握し、業務改善につなげていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2		ホームページで公開予定。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		現時点では未実施。専門的かつ客観的な立場からの評価は必要。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		年間計画に基づいて毎月、研修をおこなっている。	外部の専門的な研修への参加も積極的におこなう。
適切 な 支 援 の 提 供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	1	保護者と話す機会を設け、ニーズや機会を把握し、計画に反映させている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2	医療機関においてウェクスラー式や田中ビネーのおこなっているため、資料として提出してもらっている。アセスメントの精度をあげるため、ツールの使用は重要と考えている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	項目ごとに設定している。	今後は地域支援の項目も支援内容として取り入れていくことを検討する。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1	支援計画はスタッフも常に確認でき、話し合いも密におこなっている。	スタッフ全員が把握し、共有していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		毎月、リーダーを中心にチームで立案している。またプログラムの担当(主・副)を決めている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		季節に応じたプログラムやレベルを変えておこなうなど工夫している。運動プログラム、製作プログラムにバランスよく参加できるよう配慮している。	

適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6	1	利用者の状況を見ながら適宜組みなおしている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		毎朝、ミーティングで確認をおこなっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		振り返りのミーティングを必ずおこない、日報として記録し、全員共有できるようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	2		ABA分析シートを活用していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	1	児発管を中心におこなっている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	担当者会議の前に全スタッフで情報共有し、まとめた上で児発管が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	3		関係機関との連携を強化していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	3		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	4	現在、対象児童はいないが、先天性の病気の児童については、診断書や指示書の提出、医療機関、主治医の連絡体制は整えている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		送迎時に情報共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4		今後、就学に向けて情報共有、相互理解を図っていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	担当者会議で情報共有し、その後、全スタッフに共有している。療育支援センターの研修に参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7	公共の施設に出かけた際、一緒に活動する機会は	公共の施設に出かけた際に一緒に活動することがある。今後、機会を増やしていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	6		機会があれば参加を検討。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		連絡帳だけでなく、送迎時にその日の様子、課題についての報告をおこなっている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		7		ペアトレ実施機関の紹介やペアトレ養成講座を受講し、スタッフの資格所得を目指す。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	見学时、契約時と数回おこなっている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	1	直接説明をおこない、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	悩み等、相談していただけるよう普段より保護者とのコミュニケーションを重視している。 相談を受けた場合、解決策の提案やよりよい助言ができるようスタッフ間で話し合っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7		今後、開催を望む声があれば検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		疑問質問に対してスタッフ間で共有、検討し迅速に対応することを心掛けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		月1回、お便り、イベント表を発行し郵送している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		SNSの投稿は特に細心の注意を払っている。 書類は施錠し保管している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		直接、電話、HUGなど対象者によって手段を検討している。 会話も大切にしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		利用者のプライバシーもあるため、難しい。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2	スタッフは研修、訓練をおこなっている。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	年間計画し、地震、火災、風災害、不審者すべてに対応できるよう防災意識を高める。	非常食の確認、避難の誘導方法などスタッフのみの訓練もおこなっていく。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	アセスメントシートに併せて保護者からの情報を得て共有している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		医師の指示書や保護者の情報に基づき、対応している。他児と適度な距離をとっての食事や食後の手洗いの徹底に努めている。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		事象を共有、記録し、検印している。	
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		社内研修に加え、外部講師にも講義を依頼している。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	5		現時点で計画書に記載している該当児童はいないが、身体拘束をおこなわなければならない状況については話しあっておく必要がある。